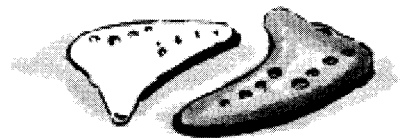
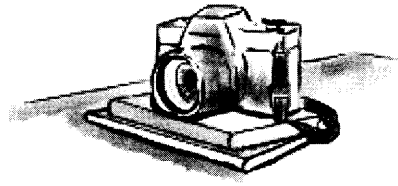


芽ぶき靄深し大江の眼光よ
憲法の日や人骨を洗ひをり
トンネルの闇から闇へ子どもの日
バードウィーク大江光の鳥の曲
沖繩忌大江健三郎いつも
「ヒロシマ・ノート」酸っぱくなるも風入れず
ギー兄さんは柳田国男父の日よ
妖怪の夏へ怖がる子が花客



うそつきを烏滸とたたへて夏来たる
生涯は「奇妙な仕事」蜷のみち
「見るまえに跳べ」とせかされ墓
旅立ちの大江に鶴の羽根帽子
蜃気楼わが青春の大江ゐる
*
土管からメーデー覗く桑原くわつばら
春行くと虫喰ひ背広一と日着て
竹の秋古墳に四脚付けたきよ
黄沙降る降る東洋の凹溜くぼったま
目をつぶり開くにとまどふ風青葉
「ラ・マンチャの男」へ菩提樹の花一枝



日に首をつかまれ白根葵咲く
残忍のかぎり筍さぐり掘り
母の日ヤリトアニアから白き麵麩
羊羹のやうな薄暑の小海線
落味噌を煉りアメリカを避けてきし
グレーダーいきいき杪櫛の茂み潰す
足の爪えぐるやう切る丑湯治
四方の山まなこ見据うる寒天つくり
砲弾の撃たるゝ氣配桃の花
恵古天や遠まなざしの安曇人

五月二十一日 静生句碑建立

地のこゑに支へられたる五月の碑